

保育でのメディア活用イメージを共有する協調アノテーション機能の評価

堀田博史（園田学園女子大学） 森田健宏（関西外国語大学短期大学部）
松河秀哉（大阪大学） 松山由美子（四天王寺大学短期大学部）

1. はじめに

保育現場において実際にメディア活用の経験がなければ、多様な活用イメージを容易に抱くことは難しい。保育でのメディア活用の経験がなくても活用イメージを豊かにするには、多くの友達のアイデアや意見を共有できる環境を準備するのの一つの方法である。

これらの環境を実現するために、1)学習支援システムのユーザビリティ、2)自律学習を促進する機能、3)教材に付加的な情報を記述するアノテーション機能、の3点に配慮した学習支援システム（以下、LePo システム）を開発^[1]、運用している。

本稿では、アノテーション機能（以下、ふせん機能）に注目して、その効果を明らかにする。

2. アノテーション機能の活用

授業では、毎回の目標およびワークシートを配布、LePo システムに掲載する。教材として提示する内容は、できるだけスライド化して、同じく LePo システムに掲載している。課題等に応じて、友達の意見を共有する場面では、図1のようにふせん機能を活用する。

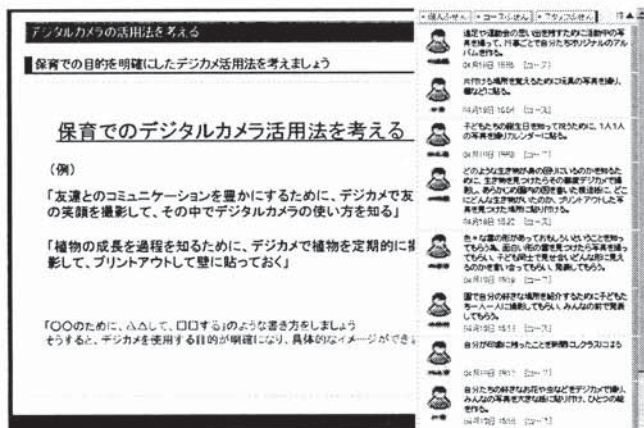


図1 LePo システムでのふせん機能活用例

3. 評価の方法

時期：2011年7月

対象：保育でのメディア活用のイメージを豊かにして、その活用法を学ぶことを学習目標にした授業（15回）を受講した短期大学部幼児教育学科2回生91名

評価方法：15回の授業終了時に、パソコン活用頻度、カリキュラム内容、システムの使いやすさ及びふせん機能についての評価用紙を作成、各質問項目を「5（そう思う）から1（そう思わない）」の5段階評定による回答を求めた。

4. 結果と考察

有効データは、欠損データを除き88名、性別はすべて女性で、パソコン活用頻度は、「ほぼ毎日」10名（11.4%）、「週に数回」37名（42.0%）、「月に数回」25名（28.4%）、「学期に数回」11名（12.5%）、「年に数回」3名（3.4%）、「使用経験なし」1名（1.1%）であった。

システムの使いやすさ及びふせん機能での情報共有の役立ちを問う、すべての質問項目で平均4.0以上を示し（表1）、LePo システムはおおむね使いやすいと評価できる。

表1 LePo システムの使いやすさとふせん機能の評価

LePo システムの使いやすさ	平均	SD
操作はシンプルでわかりやすかった	4.1	0.88
使い方はすぐに理解できた	4.2	0.90
ページの構成がわかりやすかった	4.1	0.89
LePo システム全体の評価として使いやすかった	4.1	0.91
他の利用者とのふせん機能を用いた情報共有は役に立った	4.0	0.90

また、パソコン活用頻度の違いと LePo システムの使いやすさに関係があるかを知るために分散分析を行ったが、有意な差は見られなかった。このことから、パソコン活用頻度に関係なく、LePo システムの使いやすさは評価されていると言える。

5. 課題

現在、講義の補助として LePo システムを活用しているため、ふせん機能の書き込みでは、瞬時に友達の意見が共有できる。しかし今後、遠隔から、また時間に関係なく自律学習できる環境を準備したとき、友達の意見の共有が時間差になっても、現在の効果を維持できるような仕組みが必要となる。

謝辞

本研究は、平成21～23年度科学研究費補助金（基盤研究(C)）『保育でのメディア活用に関する教育方法・技術をパッケージ化したカリキュラムの開発』（研究代表者：堀田博史）による研究成果である。

参考文献

[1] 協調アノテーション機能を持つ学習支援システムの開発、吉崎弘一・堀田博史・森田健宏・松河秀哉・松山由美子・村上涼、日本 e-Learning 学会誌 Vol. 11, pp. 79-84, 2011